

由布院小学校「人権教育」の取組

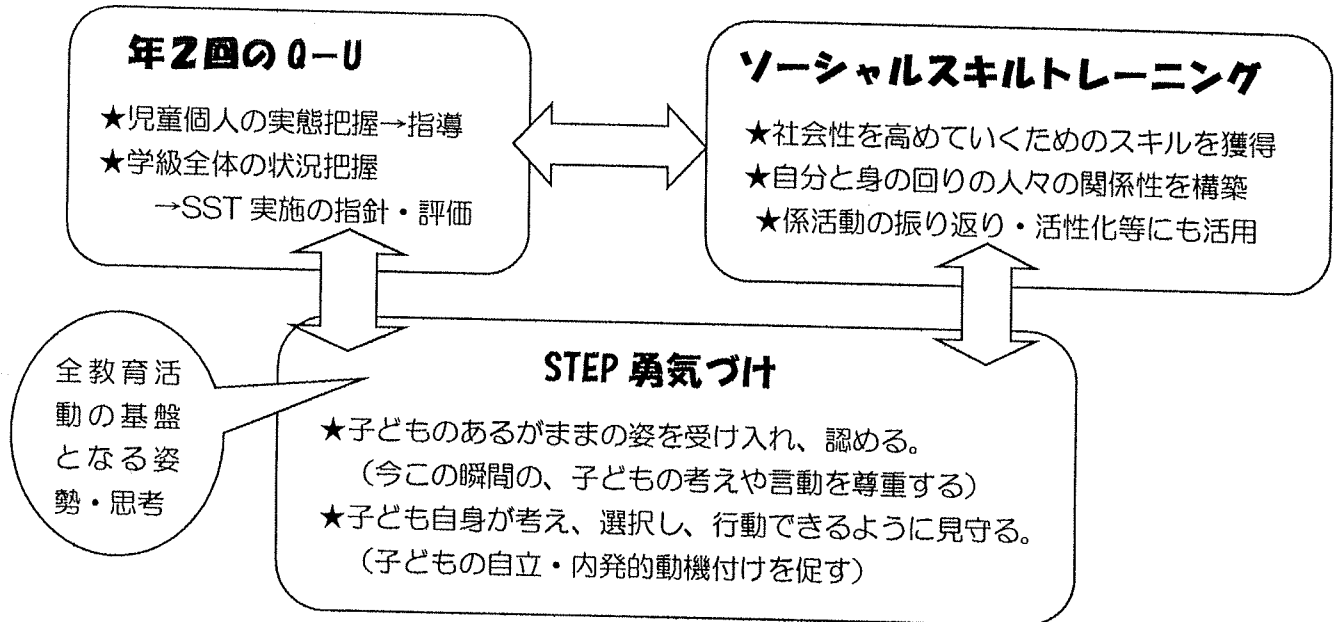
1. 研究主題&めざす子ども像



自分大好き！友だち大好き！
コミュニケーションとって楽しいな！

- ★自分大好き！・・・自分の可能性を信じ、前向きに努力する子ども。〈自尊感情の向上〉
- ★友達大好き！・・・周りの人々を、自分と同じように大切にしている子ども。〈友情のスキル〉
- ★コミュニケーションとって楽しいな！
・・・人と関わることを楽しみ、よりより関係を構築することのできる子ども。
〈コミュニケーションスキル〉

2. 研究内容・方法の連動



3. ソーシャルスキルトレーニング (SST)

Social Skills Training = 適切な人間関係を作るために必要な技能を身につけさせる方法
(生活技能訓練)

(1) その必要性

- *子ども達は、どのような言動をとればいいのか、知識としては持っている。しかし、それは実践的ではなく、日常生活の中で体現できているとは言い難い。
- *場や相手の状況に応じた望ましい言動について学び、繰り返しの演習を通してそれを身につけ、日常生活の中で適切なコミュニケーションがとれるようになる必要がある。
- *集団の中でのコミュニケーション力を育むことで、問題に対処する力や、自分も他人も大切にする「人権感覚」等も同時に培われると考える。

(2) どこで学ぶか

- OSST 授業は、子ども達の生活スキルの向上を狙って、「学級活動」の枠の中で実施する。
- 「日南プラン」をもとに、各学年の教育課程案に位置づけ、指導内容に併せて授業を実施。
- ★行事との関連 (単元プラン)・・・学校・学年の行事でスキルが役立つことをねらう。
- ★日常化 (スキルを身に付ける)・・・授業で行ったことが、真に身に付くための工夫。

(3) どう学ぶか (SST の手順)

- ①児童・学級集団の**実態把握**・・・Q-U・行動観察法・教師評定法等による個や集団の見取り
↓
- ②**ターゲットスキル**の選択・計画・・・指導対象となるスキル・何を教えるのか
↓
ex, 友情形成スキル・主張性スキル・社会的問題解決スキル
- ③SST 授業の実施

1	インストラクション (言語的教示)	○これから学ぶスキルの重要性・必要性を児童に話して聞かせる・話し合う。
2	モデリング	○教師の手本(モデル)を通して、スキルを学習する。(指導事象に似た人物・好ましい人物・説明を付加・良い結果を見せる) ○「子ども同士」、「教師と子ども」という組み合わせもある。ねらいに応じて選択。
3	リハーサル *ロールプレイ *行動演習 *繰り返しの練習	○ロールプレイを用いて、児童が実行。繰り返しの練習により自信を持つ。 ○様々な場面・相手を経験し、スキルのバリエーションを増やす。
4	フィードバック&強化	○スキルの出来栄(適切さ)について、どこが良かったか、どうすればもっと良くなるかなどの情報を与える。 ○強化は、微笑み・賞賛の言葉・スタンプ・シールなどの小さな認め。いずれにしても、プラスの面を伝えるようにする。
5	自然場面での指導 (日常生活の中での見取り)	○遊びの場面・休憩時間などでの援助・指導。

4、勇気づけ

○「STEP 勇気づけ」：親の為の子育て法「親業」。

Book「こう言えばよかったのか！ 納得子育て楽勝法」著：柳平 彬（やなぎたいら さかん）

*子どもの長所や能力に目を向け、子どもの自尊心（自信）を育む方法。

*子どもの内面からやる気を育てる（内発的動機付け）。

*子どもが自分を信じ、自分は「価値ある人間だ」と感じるように援助すること。

○アドラー心理学：目的論・所属欲求・共同体感覚の育成。

Book「教師のためのアドラー心理学 ～勇気づけの学級づくり～」著：赤坂真二

*リスクを引き受け、他者とも協力できる能力を与えること。

*困難を克服する努力を育てること。

*子どもが人生の課題を解決しようという自信を持てるように、援助すること。

～ ほめることと勇気づけ ～

ほめる	「褒める」＝褒美の意味（条件を満たした時に与える褒美） 子どもは、社会（共同体）よりも、褒美を与える相手の都合に関心を寄せるようになる。競争的な人生観を持つ。 否定はしないが、不適切な場合もあるので、注意が必要。
勇気づける	よりよくなるよう、よくしようという行為に対して行われる行為。 建設的で、積極的な言動。 自分の価値に気づく 。世の中（共同体）に関わっていこうという 意欲を持つ ようになる。 <ポイント>*期待しないこと、あきらめないこと。 *対象を尊敬すること。 *勇気づけたかよりも、相手が勇気づいたかどうかが大切。

<由布院小で意識的に取り組んできた2つの技法>

共感的理解からの 「 反映的な聴き方 」	子どもの感情を映す鏡になる <共感的理解> T:「今、〇〇〇な気分なんだね。」 ↓ 話している間に、子ども自身が整理・解決へと向かう <子どもの権利>
子どもが耳を傾ける 「 I・メッセージ 」	×「YOU・メッセージ」→ 子どもは批判されていると感じる ○「I・メッセージ」→ どう感じたかだけ伝える（声の調子・話し方は温かく） ①何がダメなのか、客観的に指摘する。 ②結末について感じたことを伝える。 ③その理由を伝える。

*SSTの授業指導案にも位置づけ、意識的に実践するよう努めている。

*授業以外にも、日常生活全般において、意識して実践してきた。

（例）子どもの困り・訴え・支援要請の場面 → **反映的な聴き方**

C: 聴いてもらって安心。落ち着いて行動できる。

教師の困り・子ども自身に考えてほしい場面 → **I・メッセージ**での刺激

C: 「ん？ これでもいいのかな？」 振り返る・再思考

★授業の中でできる勇気づけ



～ 勇気づけるメッセージ ～

(1) 貢献・協力を感謝	「あなたのおかげで、とても助かったよ。」
(2) 過程を重視	「一生懸命、努力したんだね。」「よく頑張っているね。」
(3) 成果を承認	「ここはとてもいいね。」「随分進んだね。」
(4) 失敗の受容	「残念そうだね。努力したのにね。」「次はどうすればいい？」
(5) 個の成長重視	「この前より、随分うまくなったね。」
(6) 判断を委ねる	「あなたはと思う？」「一番いいと思うようにすればいいよ」
(7) 肯定的な表現	「気が小さいんじゃなくて、慎重なんだね。」
(8) Iメッセージ	「私はそのやり方好きだよ。」「それはやめてほしいな。」
(9) 意見言葉	「私は、あなたは正しいと思うよ。」「賛成できないな。」
(10) 感謝・共感	「協力してくれてありがとう。」「やる気があって嬉しいな。」

○子の困り ← 反映的な聴き方



- ①今の状態をありのまま受け止め、共感的理解を示す。「・・・な気分だね」
- ②会話のキャッチボールをしながら、どうしたいのか（どう考えているか）を聞いてあげる。「あなたはどうしたいと思っている？」
- ③自己解決の方法を見出す手伝いをし、理解（応援的態度）を示す。「その方法はよさそうだね。」 以後、見守り、経過を尋ねて励ます。

○教師の困り → Iメッセージ

- ①今の状態をありのまま受け止め、共感的理解を示す。「・・・な気分だね」
- ②Iメッセージを使って、教師の気持ち・願いを伝える。
- ③それを聞いて、どう考え、どう行動するかを選択するのは、子ども自身。教師は

